

## 2023 年度自己点検・評価について（報告）

自己点検・評価委員長

本学は、2022 年度に短期大学部が認証評価を受審し、適合の認定を受けた。早急に改善を要すると判断される事項の指摘はなかったが、向上・充実のための課題が2点あった。そこで、2023 年度の自己点検・評価は、短大認証評価において、指摘を受けた事項を点検項目とした。以下、その結果を記す。

### 1 建学の精神と教育の効果

短大認証評価において、向上・充実のための課題に、各学科の学習成果の達成度が測れる定量的指標の必要性が指摘されている。また、本学の学習成果は、卒業認定・学位授与方針に基づいたものであるが、卒業認定・学位授与方針とは別に設定するよう求められている。

まず、学習成果を測る指標であるが、2021 年度に各学科で卒業認定・学位授与方針の項目のうち少なくとも1項目の学習成果を測る指標を検討し、2022 年度にその指標を用いて学習成果の測定を試みることで、測定指標の改善を図っている。そして、2023 年度も各学科が学習成果の測定を行った。

生活文化学科では、次の3つの学習成果を測定し、測定を行っている。

#### ①教養の獲得（日本語リテラシー、情報基礎、生活文化基礎教養、キャリアの4分野）

（測定指標）ループリックを作成し、「基礎教育」「日本語表現」（以上日本語リテラシー）、「基礎情報処理Ⅰ」「情報リテラシー」「情報倫理」（以上情報基礎）、「衣生活論」「食生活論」「住生活論」（生活文化基礎教養）、「キャリアデザイン」「キャリアスキルアップ」「社会生活のマナー」（以上キャリア）の各科目において学生の達成段階を測定

#### ②実務的技能の獲得（上級秘書士、上級情報処理士、上級秘書（メディカル秘書）、医事管理士、医療管理秘書士の取得）。

（測定指標）「上級秘書士」「上級情報処理士」「上級秘書（メディカル秘書）」「医事管理士」「医療管理秘書士」の資格取得状況を以て、実務的技能の獲得を測定

#### ③主体性・コミュニケーション力・気づく力・協働する力・考える力の獲得の場とするインターンシップ

（測定指標）インターンシップの前後に学生へのアンケートを実施し、効果を測定。

上記の結果を受けて、学科会議で学科教員による検討、意見交換を行った。教養教育の成果としては、指標としている科目の妥当性について、今後検討する必要があるという意見があった。インターンシップを挟んで実施した社会人基礎力のアンケートについては、必ずしもインターンシップ後に成長を実感できていないという項目があることが注目される一方、インターンシップそのものについては学生自身が成長機会として高く自己評価している結

果が見られ、自身で設定した目標を達成できたこと等が自信を深める結果となっていると考えられた。インターンシップが学習に有効であることは、間違いないと思われるが、学生の成長実感を問う場合には、質問の仕方によって回答が変わる可能性もあると考えられるとの結果が得られた。

幼児教育学科は、学習成果の獲得状況測定データとして、卒業認定・学位授与方針に基づいたルーブリックを作成し、年1回、学生本人にアンケートをLMS（学習管理システム）であるmanabaで実施している。アンケート結果は学生ごとにレーダーチャートで可視化され、学習成果がどの程度達成されているかを学生本人、教員ともに把握可能としている。2022度は2年コース・3年コースの1年次生を対象とした試験的な実施であったが、2023年度は3年コースの3年次生（カリキュラム及び卒業認定・学位授与方針の変更に伴い実施できず）以外の2年コース（1年次生・2年次生）、3年コース（1年次生・2年次生）の学生全員にアンケートを実施した。また、卒業年次生（2年コース2年次生）には、卒業式時に学習成果として結果を伝えている。在学生には結果を用いて、順次個別面談を行う予定である。

## 2 教育資源と財的資源

短大認証評価では、「財務状況について、学校法人全体及び短期大学部門で過去3年間の経常収支が支出超過となっており、運用資産に比べて外部負債が多い。今後、経営改善計画を着実に実行し、財務体質の改善を図ることが強く求められる。」との指摘を受けている。本学では、2017年度から経常収支差額がマイナスの状態が続いており、収支差額を黒字化するために、学校法人園田学園経営改善計画に記したとおり、収入面では学生確保、支出面では人件費の削減等（経費削減及び人員の適正化等）を同時並行で進めている。